

平成 22 年度 大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会  
第 2 回森林生態系・ニホンジカ保護管理合同部会  
議事概要

◆日 時 平成 23 年 2 月 16 日（水）13：30 ～ 16：30

◆場 所 今井まちなみ交流センター「華甍」2 階講堂

◆出席者

<委 員>

川瀬 浩	日本野鳥の会奈良 代表
木佐貫 博光	三重大学 教授
柴田 叡式	名古屋大学 名誉教授
高柳 敦	京都大学 講師
田村 義彦	大台ヶ原・大峰の自然を守る会 会長
日比 伸子	樫原市昆虫館 資料学芸係長
前田 喜四雄	元奈良教育大学 教授
松井 淳	奈良教育大学 教授
村上 興正	元京都大学 講師

(以上敬称略)

<関係機関>

林野庁近畿中国森林管理局 計画部計画課（指導普及課）	廣友 清次 企画官
林野庁近畿中国森林管理局 箕面森林環境保全ふれあいセンター	清水 好美 所長
奈良県農林部森林整備課	山上 悟 主査
吉野きたやま森林組合	森岡 哲也 参事
奈良県獣友会上北山支部	福西 貢 支部長

<事務局>

近畿地方環境事務所	池田 善一	近畿地方環境事務所長
	佐々木 仁	統括自然保護企画官
	杉田 高行	国立公園・保全整備課長
	上村 邦雄	野生生物課長
	小林 達哉	国立公園・保全整備課長補佐
	櫻又 涼子	自然保護官
	岸田 春香	係員
吉野自然保护管事務所	濱名 功太郎	自然保護官
(株) 環境総合テクノス	樋口 高志	環境部マネジャー
	保延 香代	環境部リーダー

(財) 自然環境研究センター 永津 雅人 研究主幹  
岸本 年郎 上席研究員  
荒木 良太 第一研究部 部長代理  
藤田 曜 研究員

#### ◆議 事

- (1) 平成 22 年度大台ヶ原自然再生事業実施報告について
- (2) 平成 23 年度大台ヶ原自然再生事業実施計画（案）について

#### ◆議事概要

##### 1. 平成 22 年度大台ヶ原自然再生事業実施報告について

###### (1) 平成 22 年度植生に関する調査結果について

- ・ 気温について、資料 1-2 P1 の年間最高気温は、26.6°Cではなく 27.2°C（7月 22 日のミヤコザサ型植生の最高気温の記載ミス）である。修正しておくこと
- ・ 実生生育基質調査結果について、針葉樹の種別の確認数を示しておいた方がよい。また、食痕はシカとノウサギ・ネズミ類は分けて示した方がよい。また、シカに採食されると個体自体が無くなることが多いことを記載すること。
- ・ 大規模ササ刈りのササ刈り後のモニタリング内容について、各地点ともにササを刈っていない場所のササの稈高を計測しておくこと。
- ・ ササ刈りモニタリング地点の設定で、三津河落山試験区は、疎林部とササ地に調査区を設定しているが、正木峠は疎林部のみである。ササ地は設定しないのか？

→ササ刈りを実施した範囲の環境は全て疎林部であり、ササ地の環境がなかったため、疎林部のみとしている。（事務局）

- ・ ササ刈り試験区周辺の 1 箇所における糞粒調査から算出した値は、ニホンジカの生息密度（頭/km<sup>2</sup>）と言えるのか？表現を工夫した方がよい。
- ・ 苗木植栽について、正木峠の No.6 檵内に植栽したトウヒ苗木が、写真を見ると（資料 1-2 P37）少し整然と植栽しすぎているように思える。
- ・ 植栽試験について、将来の成長をイメージするのに、過去の樹幹解析のデータがあるはずなので、入れた方がよい。

→写真の撮り方で整然と並んで見えるが、実際はランダムに、風の向きなどを考慮して自然な配置にしている。高田委員による指導の下、配置は検討している。（事務局）

- ・ 新規設置防鹿柵内の植物相調査結果について、科別の確認種数が示してあるが、外来種（国外外來種）の種数も入れておくこと。

###### (2) 平成 22 年度野生動物に関する調査結果について

- ・ 今回の調査では、ハバチについては興味深い調査結果が出たと思う。ハバチは寄主特異性が高い。詳しい調査データが出ている兵庫県氷ノ山と比較すると、種数が少なく、特に大台ヶ原のハバチ相は、草本食の種類が少ない傾向があるように思えるが、単に調査データ不足によるものかもしれない。また、大台ヶ原では、針葉樹につくハバチ類で希少なものが見られるという特徴がある。

- いわゆる大木に来る昆虫類が少ない結果が出たが、今年度の猛暑による一時的な傾向か、地球温暖化によるものかなど、その理由を検討したい。
- コウモリ類は偶然に近いくらいの確率でしか捕獲できないので評価が難しい。
- 以前、西大台でかすみ網をかけたときに、モモンガを捕獲したことがある。調査期日などのデータを調べておく。
- コウモリ類の調査結果について、平成 22 年度の確認種数が少なすぎる。調査手法（トラップナイトを増やすなど）を検討してみてはどうか。また、調査結果の整理の仕方について、トラップナイトあたりの捕獲数ではなく、何地点で何トラップナイト調査したか、といった情報が重要である。調査手法、調査結果の整理の仕方などについて十分検討すること。
- 調査日数を増やすのみでは、コウモリがかすみ網の位置を覚えててしまうので、難しい。（前田委員）
- ハープトラップを取り入れた理由を説明しておくこと。
- かすみ網をどれくらいかけたのか、といった努力時間を示すこと。

#### （3）平成 22 年度西大台利用調整地区植生モニタリング調査結果について

- 植生回復調査における「人の利用による踏み分け道」というのが、利用調整後は利用されていない箇所における「踏み分け道」であることの説明が不十分である。
- 防鹿柵を設置して人及びシカの影響を排除するのであれば、それによってシカ道がどのように移動したのかについても評価すべきである。

#### （4）平成 22 年度吉野熊野国立公園西大台利用調整地区のモニタリング評価について

- 評価の際、入山者数の変化も加えて記載した方がよい。

## 2. 平成 23 年度大台ヶ原自然再生事業実施計画（案）について

- 植生モニタリング調査において、今後結実量調査を実施しないようだが、トウヒの豊凶に関する調査だけでも実施することはできないか？

→トウヒ種子採取の際、球果がどれくらいあるか、といった目視による調査はできる。（事務局）

- ドライブウェイ沿いの植生調査は行わないのか？シカの餌資源との関連からも調査すべきである。

→昨年度調査を行っているが、傾向が現れなかった（事務局）

- 西大台利用モニタリング調査については、現在までの調査結果では、オーバーユースの傾向が出ていないので、このまま利用適正化計画を継続する、という形で OK である。平成 23 年度は 6 月 19 日までを利用集中期に変更したことによる影響を見ておくこと。

- 具体的取組の「既存稚樹の保護」については、正木峠だけではなく全域で調査し、保護を図るべきである。

→今回、調査を実施した正木峠周辺以外についても順次検討していく。（環境省）

- ニホンジカ保護管理計画における個体数調整の実施範囲を広げる（西大台含む）ことに危惧を感じる。以前から意見が出ている周辺の人工林の自然林化を進める計画はどうなっているのか？

→連絡会議の中での検討項目である。人工林の自然林化の方策は進んでいる。将来的には、シカの生息頭数も広域で把握し、計画していこうと考えている。（環境省）

- ニホンジカ保護管理計画における次年度の目標捕獲頭数 62 頭の書きぶりについて、それで確定のようにも見えるので、それ以上捕ることも可能性もあることを、誤解を招かないように示してお

く必要がある。

### 3. その他

#### (1) 新たな区域保全対策及び単木保護対策の整備基本方針について

- 既存稚樹の保護はこの中のどこに入るのか？単木保護対策の中では実施しないのか？（高柳委員）  
→既存稚樹の保護を単木的に実施する手法については、まだ検討していないため、ここには示していない。区域保全対策の小規模防鹿柵（森林後退の場所における森林更新の場の創出）の設置については検討している。（事務局）

#### (2) その他

- 西大台の多様性防鹿柵のうち、傾斜のある場所に設置しているところでは、沢筋にかけられた防鹿柵の上部や下部に落葉が堆積し、水の流れをせき止めてしまう可能性がある。両生類の生息に影響を与えることも考えられるため、維持管理方法について検討して欲しい。  
→防鹿柵の見回りは実施しているが、今後は植生や生態系に配慮した維持管理方法についても検討していく。（環境省）
- ガイドテキストについて、現在作成中のものは暫定版としてとりまとめ、それとは別に、実際のガイドが使いやすいようなコンパクトでわかりやすいものを検討していく必要がある。